

[カンショ]

1. 作付の概況

2005年度の全国の作付面積は40,800ha(前年より500ha, 1%増)で,九州は17,400ha(同5%増)であった。食用の作付が多い関東地域において,前年産の価格が低下したこと等により作付が減少したが,南九州で焼酎用の需要が多いことから増加した。収穫量は105万3,000t, 10a当たり収量は2,580kgで,前年を80kg(同3%)上回った。

2. 作柄の概況

4月中・下旬及び5月中旬以降の少雨の影響で活着はやや不良であったが,6月以降は天候に恵まれて生育が回復し,いもの肥大も順調であった。九州では単収が前年に比べて2%程度高い2,548kgとなり,収穫量も前年比3%増の527,600tとなった。

鹿児島県では概ね苗の生育は良好であったが,4月中・下旬と5月中旬以降の降水量が平年に比べて少なかったため,植付が遅れたところがあり,圃場によっては欠株等が発生し,活着はやや不良であった。茎葉の生育は挿苗後の少雨で初期生育は遅れたものの,6月下旬以降は適雨に恵まれ,7月中旬以降は高温・多照で経過したことから前年産並みであった。少雨傾向であったことから,無マルチ栽培や挿苗の遅れた圃場でいもの肥大が悪くなったが,マルチ栽培では7月中旬以降高温・多照で経過したため肥大は良好であった。着いも数は,一部活着不良の影響から,前年産に比べやや少ない圃場もみられたが,総じて前年産に比べやや多く確保された。病虫害被害等については,干ばつによる活着不良や生育不良,台風による茎葉の損傷,ナカジロシタバ等による葉の食害がみられたものの,総じて前年度並みであった。以上のことから,10a当たり収量は3,100kgで,前年産を100kg(3%)上回った。また,収穫量は41万8,500tで,前年に比べて4万500t(11%)増加した。

宮崎県でも6月まで少雨であったため,植付が遅れたところもあり,圃場によっては活着はやや不良であった。茎葉の生育は,挿苗後の少雨で初期生育は遅れたものの,6月下旬以降は適雨に恵まれ,7月中旬以降は高温・多照で経過したことから,前年並みであった。9月には台風が襲来し,その後も日照時間は平年より少なめで推移したが,いもの肥大への影響はほとんどなく,最終的には10a当たり収量は2,820kgで前年産を8%上回った。また,収穫量も前年産に比べて9,500t(16%)増加して6万8,500tとなった。

2005年度カンショ作付面積と収穫量

区分	作付 面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較					
				作付面積		10a当たり 収量		収穫量	
				対差	対比	対比	対差	対比	
	(ha)	(kg)	(t)	(ha)	(%)	(%)	(t)	(%)	
全国	40,800	2,580	1,053,000	500	101	103	44,000	104	
九州	18,400	2,548	527,600	957	99	102	47,700	103	
福岡	210			△ 15	93				
佐賀	121			△ 1	99				
長崎	584	1,930	11,300	△ 60	91	97	△ 1,600	88	
熊本	1,250	2,340	29,300	△ 20	98	99	△ 700	98	
大分	306			△ 9	97				
宮崎	2,430	2,820	68,500	170	108	108	9,500	116	
鹿児島	13,500	3,100	418,500	900	107	103	40,500	111	
沖縄	275			△ 8	97				

注) 平成17年産かんしょの収穫量(農林水産省統計部 平成17年12月20日公表)に基づいて作成。
九州の10a当たり収量、収穫量は福岡、佐賀、大分を除くデータ。